



わたしの夢 | <第31回> | 舞川小

子供たちの病気を治す 小児科のお医者さんにな りたい

DREAMS COME TRUE

夢は見るものじゃなく、叶えるもの

小野寺玲さん

おのでら・れい
舞川小6年

児童会では学校でも地域の人たちにもあいさつができるようにあいさつ運動をしています。児童会長として先頭に立って取り組んでいます。学年に関係なく誰とでも仲良しなこと、それと一関の町が広く見える景色が舞川小の自慢です。家に帰ると2歳の妹が待っています。とてもかわいいです。好きな教科は体育と算数。地域の人たちの役に立てるよう、子供の病気を治す小児科のお医者さんになりたいです。そのために中学校に行っても勉強をがんばりたいです。

▼新しいスタツフで編集した今号。私自身2年ぶりの広報編集でしたが、やっとの思いで作りました。チームのみなさんと同じ思いで働ける喜びを感じながら編集できました。季節は春真っ盛り。GWも間近です。よい連休となりますように。(伊東吉光)

▼今まで見ていた風景や人物も、カメラから覗くと違ったものに感じられます。何気ない日常が輝いて見えるような感性を日々磨きたいと思います。これからどんな写真が撮れるかわくわくしています。(渡辺恭弘)

▼今号健康塾での一節、「記憶は一代、記録は末代」は深い。記録を紡ぐものとして、責任の重さを感じます。▼締め切り間際は庁内外からあふれるほど修正依頼が届きます。「SOS」は伝えたい気持ちであふれていますね。(高橋英義)

▼春の暖かい日差しと満開の桜にうっとり。いよいよ一関にも春が来ました。河川敷の桜並木は今年で見納め。美しい桜を目に焼き付けよう。お花見に出かけました。

思い出は、お団子、かしわ餅や季節限定のお菓子など、食べ物はばかり。私は今年も、花より団子です。(小野寺裕香)

